vinetur

チリのワイン輸出、2026年1～9月は8.8％減

9月の出荷量は0.3％増と、輸出額が10億7,000万ドルに落ち込むなか、安定化を示す兆しがわずかに見られた

2026年11月16日（月）



チリのワイン輸出は2026年1～9月、前年同期を大きく下回った。公式データが11月2日に公表され、9月には出荷量が小幅に回復したことも明らかになった。

農業研究政策局（Odepa）が10月の統計速報で発表したところによると、チリは1～9月にワイン4億7,560万リットルを輸出し、輸出額は10億7,180万ドルだった。2025年の同じ期間と比べ、輸出量は8.8％、輸出額は6.4％減少した。

この数字からは、チリのワイン貿易の落ち込みがわずかに和らいだにすぎないことがうかがえる。公表された増減率を基にすると、前年同期より輸出量は約4,590万リットル少なく、輸出収入は約7,330万ドル減少した。これらの差額は、丸められた増減率から算出した概算値である。

9月には小幅な改善が見られた。同月のワイン輸出量は5,610万リットルで、2025年9月を0.3%上回った。FOBベースの輸出額は1億2,690万ドルとなり、前年同月比で2.5%増加した。

1～9月は輸出額の減少率が輸出量の減少率を下回ったため、1リットル当たりの平均輸出額は上昇した。公式の合計値から算出すると、平均額は約2.25ドルで、前年同期より約2.6%高い。ただし、この上昇だけで価格が全般的に上がったとは言えない。平均額は商品構成や仕向け先市場、契約条件、為替の影響によっても変動するためだ。

このデータは、チリを代表する農産物輸出産業の一つが複雑な状況にあることを示している。一方で、年初来の数字は海外出荷がなお大幅に縮小していることを示す。他方、9月の結果からは、少なくとも月次ベースでは、年初の低調な実績を経て市場が安定した可能性がうかがえる。

Odepaの速報に掲載された数字には、9月と8月の比較は含まれていない。そのため、前年同月比を超える短期的な勢いの評価には限界がある。それでも、9月の実績は累計の傾向を上回り、輸出量、輸出額ともに2025年の同月比で小幅な増加に転じた。

輸出データの対象はワインのみ。Odepaが定期的に公表する統計の一環として発表されたもので、チリの農産物貿易を示す主要な公式データの一つだ。輸出業者や生産者にとって、今回の報告は、業界が前年より少ない量しかワインを海外で販売できていない一方、平均では、輸出量の減少だけから想定されるよりも1リットル当たりの収入を確保していることを示している。